

12課

9月17日

1粒の麦のように死ぬ



安息日午後 9月10日

暗唱聖句

よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。(ヨハネ 12:24、口語訳)

はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。(ヨハネ 12:24、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ 2:5~9、ローマ 12:1、2、サムエル記上 2:12~3:18、サムエル記上 13:1~14、ゼカリヤ 4:1~14

今週のテーマ

イエスの1粒の麦の死の描写は、神の御心に従順であることの見事な比喻です。まず、種は地に落ちます。麦の穂から地に落ちる種は、どこに、どのように落ちるかを自分で決めることはできません。種は自分を取り囲み、そして攻め寄せる土を選ぶことはできません。

次に、種は待ちます。地上に落ちた種は自分の未来を知りません。種はその身にどのような未来が待っているかを「想像すること」もできません。ただ1粒の麦の種にすぎないからです。

三番目に、種は死にます。種は自分の安全と、1粒のままでいる快適な状態を放棄しない限り、穂になることはできません。「死」ななければならないのです。つまり、1粒の種が豊かに実る穂に変えられるためには、それまでの自分を放棄しなければならないということです。

今週のポイント

もし私たちが、神の御心が私たちにとって最善だと知っているなら、なぜそれを受け入れるためにこんなにもつらい時を経験するのでしょうか。キリストは私たちに従順のどのような模範を残されましたか。この麦の穂のたとえは、あなたの人生にどのように当てはめることができるのでしょうか。

問1 フィリピ2:5~9を読んでください。ここに私たちにとってどのような重要なメッセージがありますか。

現代社会では、すべての人が権利を要求し、主張するように奨励されます。それ自体は良いことであり、通常そうあるべきです。しかし私たちがイエスと共に生きるとき、神の御心は、神の国への永遠の影響力となる方法で神に仕えるために、権利を無条件で放棄することを私たちに求めます。この放棄の過程は時に難しく不快であり、厳しい試練を生じさせるかもしれません。

イエスはこのことをどのように経験されたのでしょうか(フィリ2:5~8)。ここにイエスが神の御心に従順であるために取られた三つのステップが描かれています。初めにパウロは、私たちの注意を喚起するために次のように言います。「互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです」(同2:5)。

私たちを救う身分になるために、イエスは天父と等しい者であることを放棄し、人間の姿と制約を身に受けて地上においでになりました(フィリ2:6,7)。

イエスは偉大な輝かしい人間としてではなく、他の人類に仕える僕として来られました(同2:7)。

人間の僕として、イエスは平安な長寿を生きただけではなく、「死に至るまで従順でした」(フィリ2:8)。しかし、その死は高貴な輝かしい死ではなく、「死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(同)。

問2 イエスのこの模範は、私たちの人生のどのような場面で助けとなるのでしょうか。権利と平等が良いものであり守るべきものであるなら、それらを放棄する必要があることをどのように説明しますか。フィリピ2:9は天父の御心に従順であることを理解するためにどのような助けとなるのでしょうか。

聖霊からの知恵を求めて次のように祈りましょう。「家族、教会、周りの人たちに仕える上で、イエスの御心に従順であるために私が今手放すべき権利は何でしょうか。私は他者に仕えるためにどれほどの不快感に喜んで耐えることができるでしょうか」

多くのクリスチャンが、自分の人生に対する神の御心を真摯に知ろうとして言います。「私の人生に対する神の御心さえわかったら、私は神のためにすべてを犠牲にするだろう」。しかし、このように神に約束した後でも、私たちは何が神の御心かと戸惑います。このような困惑の理由は、ローマ12：1、2に見いだされるでしょう。パウロはどうすれば神の御心を知ることができるかについて重要な点を示しています。すなわち彼は、もしあなたが神の御心を知りたいなら、まず供え物を献げなさいと言うのです。

ローマ12：1、2を読んでください。パウロは、私たちは次の条件を満たすとき、「何が神の御心であるか……をわきまえるようになる」と述べています。

1. 「神の憐れみ」について正しく理解すること (同12：1)
2. 自分を生きた供え物として神に献げること (同12：1、口語訳)
3. 心を新たに変えていただくこと (同12：2)

神の御心を真に理解できるのは、新たにされた心だけです。しかし、心が新たにされるためには、まず自己に死ぬことが条件になります。キリストが私たちのために苦しむだけでは不十分でした。彼は死ななければならなかったのです。

問3 あなたの中の完全に「死んで」いない部分を示してくださるよう聖霊に祈りましょう。神に喜ばれる「生きた供え物」となるために、聖霊はあなたに何を捨てるように求めるでしょうか。

私たちの生活の中に、完全に自己に死んでいない部分があるとき、神は私たちの注意をそこに向けるために試練をお許しになります。しかしながら、供え物はただ私たちを罪にたいじ対峙させるだけでなく、私たちにイエスの自己犠牲に対する洞察を与えます。エリザベス・エリオットは次のように書いています。「私たちが心底熱望するものを放棄するということは、おそらく私たちが十字架の理解に近づくほどに達せられることなのでしょう、……私たちの十字架の経験は救い主のそれに比べればあまりに小さいものではあるが、にもかかわらず、主の苦しみを共にすることは、主を知る機会へと私たちを導くのです。どのような形であれ、私たちの苦しみの一つひとつは、主と同じ十字架の経験への召しなのです」(エリザベス・エリオット『愛を探し求めて』182ページ、英文)。

「主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。『サムエルよ。』サムエルは答えた。『どうぞお話しください。僕は聞いております。』」（サム上3:10）。

あなたは静かで小さな聖霊の御声を耳にしながら、それを無視したことがありますか。その結果すべてがうまく行かず、後で自分に次のようにつぶやいたことはないでしょうか——「なんてことだ。あの時、なぜ聞かなかったのだろう」

初めにサムエルは、ある老人と主の御声を聞かなかったよこしまな2人の息子と、御声を聞いた少年の物語を語ります。神からの強い警告にもかかわらず、彼らは自分のふるまいを改めねばならなかったのに、そうしませんでした。

問4 サムエル記上2:12~3:18を読んでください。ここに神の御声に聞き従った者と聞き従わなかった者との違いがどのように明らかにされていますか。

エリの息子たちの心を占めていたものは、神のことよりも他のことでした。エリが、神の彼らに対する決意を聞いた後に息子たちに語ったときさえ、彼らはまったく耳を貸そうとしませんでした。彼の息子たちは明らかに〔祭司として〕自分たちの生活の細部にいたるまで神の御心に従わせる準備はできていませんでした。幼いサムエルと比べてなんという違いでしょう。

説教者であるチャールズ・スタンリーは、彼が「中立になる」と呼ぶ、神の御声を聴くための中立性の重要性について次のように述べています。「聖霊は……聞き流すための情報は語らない。彼〔聖霊〕は応答を得るために語るのである。そして彼は、私たちの関心事がいつ私たちの心を占拠するかを知っている。そんな時にそれと相容れないことを語っても時間の無駄である。それで彼はしばしば沈黙を守る。私たちの心が十分に中立になり、聞いて最後には従うのを待つのである」（『霊に満たされたすばらしい生活』179、180ページ、英文）。

スタンリーの言う「十分に中立になる」とは何を意味するのでしょうか。神に対して「十分に中立になり、聞いて従う」ことを妨げるものは何でしょうか。神の御声に対する中立性とその導きに従う決断力を養うために、あなたの生活に必要なものは何でしょうか。

エデンの園でエバが罪を犯したとき、問題は単に彼女が神の御言葉を疑ったことではありませんでした。この問題の核心は、彼女が自分の知恵で善悪の判断ができると信じたことにありました。彼女は自分の判断を頼りとしたのです。私たちが、神の御言葉に反して自らの判断に頼るとき、それはあらゆる問題に対して扉を開くことになります。

サウルの物語は、自分を頼みとすることのステップとその直後に続いた悲劇について述べています。サムエルは神の王としてサウルに油を注ぎました(サム上10:1)。その時、彼はサウルに明確な指示を与えましたが(同10:8)、サウルはその指示に従いませんでした。

問5 サムエル記上13:1~14にあるこの物語の続きを読んでください。サウルのどのような行為が彼を墮落へと導きましたか。

サウルが王に任命されてから間もなく、彼は三つの段階を経て自分を頼みとするに至りました。問題は、そのどれもがその行為自体が悪いことではないということにあります。しかし、それらが神から離れて独断で行われるとき、悲劇を生みます。サウルが没落に至った順序に注目してください。

1. サウルは「見た」(サム上13:11、口語訳)と言います。自分の兵士が散って行き、サムエルがまだ来ないのを見、脅威を感じたサウルは自分の目で見たことで判断します。

2. サウルは「見た」から「言った」(英語新欽定訳)へと進みます。彼はペリシテ軍が彼らに向かって攻めてくるだろうと言いました。自分の目で見たことが、彼が言うこと、あるいは考えを形づくりました。

3. サウルは「言った」から「思った」(サム上13:12)へと進みます。彼は焼き尽くす献げ物をささげなければならぬと思いました。サウルが考えた(言った)ことが今度は彼の感情を形づくりました。

私たちはみなこのステップを踏みます。私たちは人間の目で見たものを頼りとし、それが人間の考えを頼りとさせ、さらにそれが人間の感情を頼りとさせます。そして私たちは、この感情に基づいて行動するのです。

私たちは、人間の知識が危うく不完全なことを知りながら、なぜ頼りとするのでしょうか。人間の知識より主の戒めを頼りとするにはどうすればいいのでしょうか。

昨日学んだように、神の御心に対する従順は、私たちが自分の力に頼ることによって徐々に切り崩されます。同じことが神に代わるものに頼ることによっても起こります。ある人は落ち込んだときにはショッピングをして気分を晴らします。ある人は自分の未熟さを有名になることで見返そうとします。またある人は夫婦間に難しさを感じて、別のだれかに親密さや刺激を求めます。

そういったことの多くは、私たちがそのプレッシャーから一時的に解放してくれますが、必ずしも問題の解決にはなりませんし、次に備えて対処法を教えてくださいません。神からの超自然の助けのみが解決を与えてくれます。多くの場合、問題は神そのものでなく、代わりのものに私たちが頼ることにあります。

私たちが神の代わりに頼るものを三つ挙げてみましょう。

1. 新しい神の啓示が必要なときに、人間の理論や過去の経験に頼ること。
2. 神の解決を必要とするときに、問題を頭から締め出すこと。
3. 天来の力を求めて神との交わりを必要とするときに、現実から逃避し、神を避けること。

私たちが代わりのものに逃げたい誘惑を感じる時、ゼカリヤは私たちが真の問題に目を向けるのを助けてくれます。多くの年月の後に、捕囚の民は遂にバビロンからの帰還を果たし、直ちに神殿の建設に着手します。しかしそこには神殿建設に反対する幾多の困難が待っています（その背景についてはエズ4～6章を参照）。そこでゼカリヤは、神殿建設を指揮していたゼルバベルを勇気づけるメッセージを携えてやってきました。

問6 ゼカリヤ4章を読んでください。6節で神は何を言おうとしておられるのでしょうか。神の霊は神殿建設の完成にどのような影響を与えますか。このことは、聖霊と私たちの活動との関係について何を教えていますか。

神は神殿建設に対する反対をあらかじめ防ぐことも、ゼルバベルをそのような状況が生むストレスから守ることもされませんでした。神は常に私たちに反対から守ってくださるとは限りません。しかし、神は反対を私たちが神に頼ることを学ぶための試練として用いることができになります。

あなたのストレス対処法は何ですか。食べ物、テレビ、それとも祈りですか。神にゆだねることですか。あなたの答えはあなた自身を、そしてあなたが学ぶべきことや変えるべきことをどのように示しているのでしょうか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第56章「エリとむすこたち」、第60章「サウルの不遜な態度」を読んでください。

神の御心に対する従順は、私たちが欲望や野心に死ぬことから生まれます。これが他者に対する真の奉仕の道を開きます。私たちは、供え物となること、そして絶えず神の御声に心を開くことなしに、神のために生きることはできません。私たちの意思を真に神の御心に従わせるためには、自分を頼みとすることと、神の言葉と力の代わりにものに頼ることの危険を知る必要があります。神の御心に従順であることは、キリストのような生き方の核心なので、神は私たちが神に依存することを学ぶために試練をお許しになるのです。

「エリの怠慢は世のあらゆる親たちの前に明らかに示されています。清められていない愛情を持ち、不愉快な義務をいੱただいたために、彼は、よこしまな息子たちの罪という結果を刈り取りました。悪を許した親も、悪を行った子どもたちも、共に神の前に罪を犯したのであって、神は彼らの罪に対しては、何の犠牲も供え物も受け入れようとはなさいませんでした」（『希望への光——クリスチャン生活編』159ページ、『家庭の教育』290ページ）。

話し合いのための質問

- ① 私たちの罪のために、死ぬために人として地上に来るという、神の御子の信じがたい謙遜について話し合しましょう。この模範は他者のための自己犠牲と自己否定について、私たちに何を語っていますか。イエスが生きたと同じように生きることは、確かに私たちにはできませんが、その原則は常に覚えているべきです。私たちはどうすれば、私たちの今ある所で、イエスが十字架で示された従順と自己犠牲に倣うことができるでしょうか。
- ② 多くの人にとって、その後何が起こるかを知らずに神に従うことは恐ろしいことかもしれません。神よりも自分を頼みとする人に、あなたはどのような助言ができるでしょうか。未来がわからないことの恐れや未来をコントロールできない恐れを取り除くために、あなたは彼らに何を語ることができるでしょうか。
- ③ クラスで時間をとって、今神の御心に従うことに困難を覚えている人のために祈りましょう。そうすれば彼らは、神に信頼することが、永続する平安への唯一の道であることがわかるでしょう。同時に、彼らが神に信頼することができるよう、そして神の方法が最善であることがわかるよう助けるために、具体的に何ができるか話し合しましょう。